

マスクの効果について

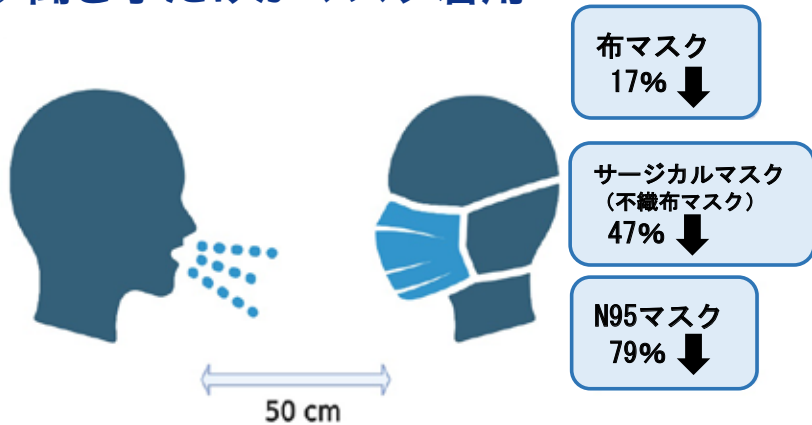
新型コロナウイルスが猛威を振るう中、さらなる感染拡大を防ぐ為にマスクの着用が強く推奨されています。

図は、東京大学医科学研究所の研究データを基に内閣官房が作成したものです。マスク着用の目的は、会話や咳による飛沫の飛散や吸い込みを防ぐこととされており、話し手、聞き手ともにマスクをすることが大切です。

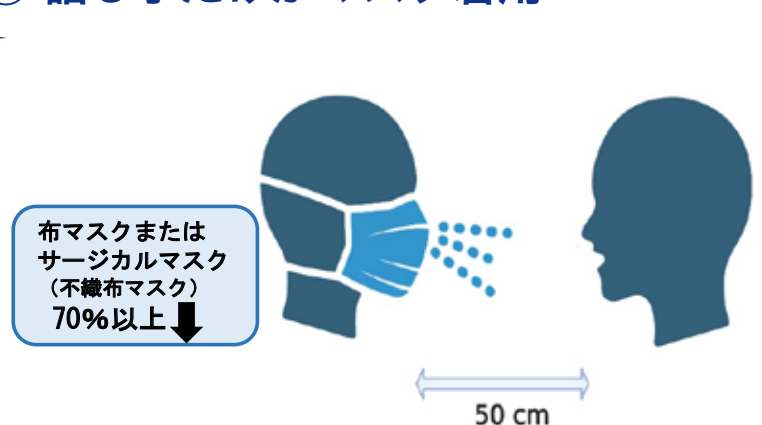
話し手と聞き手の距離や、マスクの着用状況、マスクの素材（性能）によっても防御効果に大きな違いがあることがわかっています。

ただし不織布マスク、布マスク、ウレタンマスクなどは、それぞれにも性能差がありますので、不織布が良くて、布・ウレタンはダメとは言いきれませんので注意が必要です。

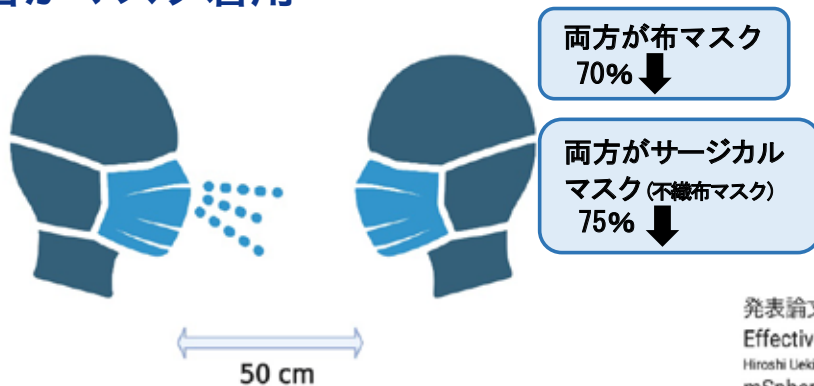
① 聞き手だけがマスク着用



② 話し手だけがマスク着用



③ 両者がマスク着用



みんながマスクをすることが大切

発表論文
Effectiveness of Face Masks in Preventing Airborne Transmission of SARS-CoV-2
Hiroshi Ueki, Yuri Furusawa, Kiyoko Iwetsuki-Horimoto, Masaki Imai, Hiroki Kabata, Hidekazu Nishimura, Yoshihiro Kawachi
mSphere 2020. DOI: 10.1128/mSphere.00637-20

大阪朝鮮高の戦い ～ 全国高校ラグビー大会で改めて感じたこと

スポーツ界はコロナ禍で暗い影を落としています。W杯で日本代表の活躍もあり、全国高校ラグビー大会は観ている者に感動を与えました。私が特に注目したのはベスト4入りした大阪朝鮮高です。

高校ラグビー大会公式サイトをみると、同校の部員数はわずか39人しかいません。決勝に進んだ桐蔭学園102人、京成章123人、同じく4強入りした東福岡135人に比べて、格段に少ない部員数です。

在日コリアンが通う学校なので有力な選手が集まる環境ではなく、高校からラグビーを始める素人も多いと聞きます。それなのに強豪校、ぞろいの大阪では花園の常連校であり、かつ全国ベスト4に3度も入るのは奇跡に近いと思います。

優勝した桐蔭学園とは準決勝で対戦し、フォワードの平均体重で100kg対91kgという重量差があるにもかかわらず、前半は12対12と互角の勝負でした。

部員数が少ないのは学校全体の生徒数が20年前の約600人から210人に減少したことが響いています。

その大きな原因は高い授業料負担です。なぜ高いのか？ 普通の学校では当たり前の、国や大阪府の財政支援が大阪朝鮮高にはありません。大阪府は2012年に橋下徹知事が補助金を打ち切り、安倍政権は高校無償制から朝鮮高を排除しました。

無償制の適用を求めて国を訴えた裁判は、地裁でこそ勝訴しましたが、高裁ではなんと逆転敗訴。そのまゝ一昨年に最高裁で敗訴が確定しました。

大会中に選手が「花園で活躍する姿を観てもらいたい、朝高でラグビーがしたいと思う子を増やすことが使命」と語ったことが胸に刺さりました。

大阪朝鮮高の生徒達はラグビーだけで戦っているのではなく、国と大阪府による道理なき差別とも戦っています。